淡路栄光園

特別養護老人ホーム淡路栄光園
淡路栄光園短期入所生活介護
デイサービスセンター淡路

2014年度は、市営施設の移譲整備にて当園の職員が大幅に入れ替わり、改めて「人財育成」の必要性を感じ、個々の成長と組織の安定が大きな課題と気付かされた1年であった。

2015年度はこの課題を糧に変え、皆で同じベクトルを合わせながら推進し、目標を管理、達成すること、役職者も職員一人ひとりも、その人その人に応じた「自立」ができ、太い幹を育み、利用者に還元できるような組織づくりを目指していく。

当園のお膝元である淡路市岩屋地区及びその周辺地域は、超高齢化の街である。我々は在宅支援施設として地域包括ケアシステムの一握を担う責務がある。地域から「我々に求められていること」に耳を傾け、聖隷の事業所は基より、行政や関係各所と連携し、地域福祉を支える役割を構築していく1年にしたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1．「人財育成」を軸とした質の高いサービスの提供
2．安定した施設経営の維持
3．淡路地区における事業連携強化
4．将来計画への取り組み
5．環境対策への取り組みと社会貢献活動

【事業・運営計画】

1．「人財育成」を軸とした質の高いサービスを提供する

（ア）教育委員会による介護テクニカルラダーを軸にした研修等の年間計画を作成、実施する
（イ）プリセプター制度やＯＪＴ指導による新人、中途採用者及びそれに関わる中堅職員の育成
（ウ）ケア中に起こる介護過誤の減少や体調不良の早期発見、感染症の予防等を行い、健やかな生活を送られるようリスク管理に努める
（エ）各部署のリーダーが中心となって、利用者状況に合わせた対応の検討やプラン作成は基より、本人、家族等が安心し納得できるような「伝える」力を強化する
（オ）「介護職員等による痰の吸引等の実施のための研修」「介護職員実務者研修」など、外部研修に計画的に参加し、重度利用者ケア体制の充実を図る
（カ）口腔ケアの向上、誤嚥性肺炎の予防について知識と技術を高め、実践する
（キ）介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員等の資格取得を積極的に推進する
（ク）通所介護事業では、これまで培ってきたサービスの多様化をさらに深め、安定した提供ができる職員体制やシステムを強化し、利用者満足度向上に努める

2．施設経営の安定化

（ア）病院との連携により、入院期間中の空室利用や退院調整を円滑に行う

（イ）在宅部門新規獲得の営業活動と効果的な日程、居室の調整を行い、稼働率を向上する

（ウ）地元高校との連携など、地域に密着した人材登用策を検討、実施する

（エ）介護保険制度の理解等、管理者発信で自職場をリスクマネジメントできるよう、職場長会にて定期的な勉強会等を実施、加算の適時対応等、安定した運営体制に繋げる

（オ）業務改善や研修、可視化による意識付けを行い、コスト管理を実施する

（カ）ライフライン設備等の保守、修繕を計画的に進める

3．淡路地区における事業連携強化

（ア）淡路地区医療福祉連携モデル会議及び医療福祉連携モデル創造会議を基に、淡路地区聖隷事業所の連携モデル図の具体的な取り組みと課題解決に努める

（イ）職員研修、交換研修、地区学会などを充実させ、淡路地区全体での交流と人材育成を図る

（ウ）聖隷及びその他の医療、福祉機関や行政、社会福祉協議会等と連携し、地域包括ケアシステムの一翼を担う

4．将来計画への取り組み

（ア）淡路市第6期介護保険事業計画について状況を把握し、対応策を検討する

（イ）2015年度の介護保険制度改正における対応策の検討、実施

5．環境対策への取り組みと社会貢献活動

（ア）環境対策への取り組み

① 施設内照明器具のＬＥＤ化を段階的に進め、消費電力の削減に努める

② 空調設備等のメンテナンスにより、光熱費の抑制を図る

（イ） 社会貢献活動

① 地域ボランティアや地元中学、高校との連携を図り、地域とのつながりや人材育成に寄与する

② 行政や福祉関係機関が行う地域支援事業に積極的に参加する

③ ＬＳＡ24地域サポート型特養事業の登録定員である10名枠を達成し、地域の見守り支援の役割を果たす

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護	
	従来型		一般	介護予防
利用者定員	60名	17名	35名	
利用者延べ数	21,411名	6,533名	7,602名	1,086名
一日平均利用者数	58.5名	17.8名	21名	3名
稼働率（%）	97.5%	105%	68.6%	
稼動日数（延べ）	366日	366日	362日	
単価（一人一日当り）	10,639円	10,436円	9,217円	6,970円
ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）	228,882千円	68,386千円	77,710千円	
職員数（常勤換算）	36.3名	9名	16名	

逆瀬川あゆみ保育園

2015年度は「子ども・子育て支援新制度」が施行される。新制度理念の「すべての子どもの健やかな成長を実現する社会を目指す」ため、職員と共に理解を深めながらも、一人ひとりを大切に保育していくことを続けていきたい。また老朽化した建物の中、少しでも子ども達、職員が快適に安心して生活できる場として引き続き保育環境を考え整えていく。

また、職員間や保護者とのコミュニケーション力を高めるために、研修や実践の場を通して学べる機会を増やしていく。そして職員、保護者が共に想いを伝えあいながらひとつのチームとなり子どもたちの心の土台を育てながら、その成長の喜びを分かち合えるようにしていきたい。

新制度は待機児童解消のため、保育・教育の集団単位が多くなる事が懸念される。どんな状況の中でも子どもたち一人ひとりが大切にされ、自己肯定感が十分に育まれるよう愛をもって丁寧に保育することは変わらずにいたい。

【施設理念】　キリスト教保育　「愛によって歩みなさい」

【経営方針】

1．愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る。

2．ひとりひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する。

3．楽しい環境の中で主体性、創造性を育む。

【事業・運営計画】

1．保育の質の向上

（ア）保育の基本方針の統一をはかる

①保育者と共に保育理念、施設目標を確認し、「一人ひとりを大切にする保育」を実践する。研修を通して理解を深める

②わらべうた遊びやふれあい遊びなどを実践し、子どもとのコミュニケーションを深める

（イ）保育環境の定期的な見直しをする

① 子どもたち一人ひとりの発達や興味にあった玩具を提供できるように計画的に用意し発達や季節に応じてその都度見直す

② 自分のクラスだけでなく、他クラスの環境も視野に入れ、子どもにとってより良い環境を共に考えられるようにする

③ 人的環境（声の大きさや言葉使い、働きかけ方など）を保育者一人ひとりが考え行動し、またクラスや園全体で共に分かち合いながら学び、実践する

（ウ）カリキュラム・日誌・日課などを個人別に記入し、一人ひとりをより深く理解する

（エ）保育者研修の充実

① 保育現場に合わせた園内研修や「あゆみ合同研修」を実施し保育実践に繋げる

② 保育者の興味にあった外部研修に積極的参加を促し、学んできた事を職員間で共有できる場を設ける

③ 向上心を持ち、保育の中での疑問や探究心を掘り下げ言語化することを意識し、保育学会を実施し参加していく

2．保護者との交流

（ア） 保育参観や参加・懇談会・個別相談・送迎時の会話・園だより・クラスだより・連絡ノート・ドキュメンテーションボードを通して活動の様子を知らせる

（イ） 園内トラブルへの迅速丁寧な対応、最後まで徹底したフォローをする

（ウ） アンケートや面談による意見の吸い上げをしっかりと行い、出来る限り気持ちを大切にして答えていく

3．野上あゆみ・御殿山あゆみ保育園との3園連携

（ア）合同研修や学会、情報交換などこまめな連携をとり共に学び歩んでいく。特に野上あゆみ保育園とは3歳児以降の受け入れ先として交流をし、保護者に安心感をもたせる

4．地域にむけての子育て支援

（ア） 地域参加プログラム「すくすく」「赤ちゃんプログラム」園庭開放・室内開放・育児相談の積極的な実施によって、保護者同士が繋がっていけるような支援を目指す

（イ） 園行事等を通して地域の保護者や子どもたちと職員間の交流を通してニーズや現状を理解し支援に繋げる

（ウ） ホームページによる毎月のお便り紹介やブログによる園内の可視化をする

5．食育

（ア） 栄養士を中心に保護者へ向けて行事やおたよりを通して食の情報の発信を行う

（イ） 栽培やクッキング、食べ比べ、給食を通じて旬の食材の名前や役割や味を知り、食べることの楽しさを子ども達に伝えていく

6．働きやすい環境つくりを目指す

（ア） 保育士一人ひとりの存在をお互いに大切にし、クラスを越えて保育の楽しさを語りあえる環境を整える

（イ） 業務の省力化、情報の共有化を職員と共に考えていく

【数値指標】

利用者数	定員	45名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童入所率100%	入所数4/1現在	4名	13名	14名	14名			45名
		内、障がい児							0名
		年間入所延人数	117名	166名	168名	168名			619名
	特別保育補助事業	年間利用延人数	一時保育事業						1,260名
			延長保育推進事業						84名
			子育て支援事業						200名
			障がい児保育（受け入れ）						
職員数（常勤換算）			施設長	保育士	看護師	調理	助手	事務他	計
		正規職員	1名	9名	1名			1名	12名
		ﾊﾟｰﾄ職員		6名					6名
		計	1名	15名	1名			1名	18名

御殿山あゆみ保育園

昨今、待機児童対策として宝塚市においても毎年、新設園が開園している。
このような中「選ばれる園」になるための「個性化」を考えていく必要がある。自園の強みのひとつに児童館が併設されていることがある。2015年度はそれを生かし、在園児・地域の親子が集い、互いに充実した時を持てるよう園庭の環境を整えていく。ひいては自園を知ってもらうきっかけとなり、入園に繋がっていくことを願う。

保育については2015年度も引き続き、一人一人を大切に丁寧な関わりを忘れずにいたい。
また緩やかな担当制を実践する中、毎日の生活の中心となる「遊びから食事へ、食事から午睡へ」の流れを、クラスが替わっても、どの保育士が担任を持っても「留意すべき点」が変わらぬようにしていきたい。そのためには、話し合いの場を十分に設け、職員の思いや迷いに耳を傾けながら職員間の共通理解を深めていく必要がある。育児担当保育を実践していくうえで、保育士どうしの連携、相互理解が何より大切であることを、すべての職員が実感できる一年でありたい。

【施設理念】
「あなたがたも愛によって歩みなさい」　エフェソの信徒への手紙 5-2

【経営方針】
1．愛されて愛する心を知り、一人一人が大切な存在であることを知る。
2．一人一人の違いに気付き、お互いに認め合いながら共に過ごす。
3．豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる。

【事業・運営計画】
1．法人理念や施設理念、保育の基本方針の確認
　（ア）施設理念をもとに保育目標の確認をしながら職員が同じ目標に向かう
2．個々の成長発達を大切に考え、安心感を持って過ごす
　（ア）緩やかな担当制を取り、一人ひとりの発達に応じた丁寧な関わりを考える
　（イ）職員の思いや迷いに耳を傾けながら一つひとつを具体的にしていき、保育士同士の連携、相互理解を深めていく
　（ウ）「自己肯定感」「人と関わる力」を持って小学校へ送り出せるよう、大切な乳幼児期をゆっくりと育てていく
　（エ）異年齢で過ごす時間を自然に持てるよう考え、年齢の枠を超えての関わりを大切にする
　（オ）障がい児の理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的にケース会議を行う
3．食育
　（ア）保育士、管理栄養士、調理師との連携による年間食育計画の作成と実施
　（イ）　苗からの野菜の栽培、収穫の喜びを通して食への関心を持ち、感謝の気持ちを育む
4．地域の状況に応じた子育て支援を考える
　（ア）保育士が出前児童館に出向き、保護者の様々な思いに寄り添いながら地域における

子育て支援の役割、重要性を認識する

（イ）子育てに関する講演会、離乳食の試食会の実施

（ウ）ホームページを見直し、園内、保育が見えるようにしていく

（エ）園庭をある程度、乳幼児で住み分けを行い、年齢、成長発達に見合った遊びを保障していく。また園庭の環境を充実させることで、在園児・地域の親子が一緒に集う場となるよう、一年をかけて園庭の環境を考えていく

5．職員研修の充実、人材育成

（ア）専門性を高めるため、各自の保育の課題に沿った外部研修（保育、子育て支援、障がい児、虐待、保育行政等）に、主体的に参加する

（イ）宝塚地区３カ園の「あゆみ保育園合同研修会」の計画実施

（ウ）園内での保育の相互評価や講師を招いての研修会により、質の高い保育を目指す

（エ）保育の中での学びを発表する場として、宝塚地区での保育学会を計画実施

（オ）　自己評価をもとに話し合いの場を持ち、PDCA サイクルを行い質の向上に努める

（カ）作成中のテクニカルラダーの活用により、自覚と責任をもって仕事に従事することができる人材を育成する

6．逆瀬川あゆみ保育園、野上あゆみ保育園との３園の連携

(ア)宝塚地区の保育園として、相互の連携を取りながら共に歩む

7．児童館との連携

（ア）お互いの役割を理解し合い、協力体制を作りながら御殿山での位置づけを行う

（イ）情報の共有化、行事の合同開催

【数値指標】

利用者数	定員	120 名	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
	児童入所率 109%	入所数 4/1 現在	4 名	23 名	24 名	24 名	24 名	24 名	123 名
		内、障がい児				2 名	1 名		3 名
		年間入所延人数	128 名	287 名	288 名	288 名	288 名	288 名	1,567 名
	特別保育補助事業	年間利用延人数	一時保育事業						490 名
			延長保育促進事業						2,312 名
			子育て支援事業						240 名
			障がい児保育						720 名
職員数（常勤換算）			施設長	保育士	看護師	調理	助手	事務	計
		正規職員	1 名	16 名	1 名			1 名	19 名
		ﾊﾟｰﾄ･ｱﾙﾊﾞｲﾄ		9.7 名					9.7 名
		計	1 名	25.7 名	1 名			1 名	28.7 名

御殿山児童館

御殿山児童館は、次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とする。地域に信頼される児童館であり続けるために2015年度も『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や情報の提供、相談・援助や子育て講習会の実施等、乳幼児親子への子育て支援の拡充に努める。また、小学生児童や中高生の余暇の居場所づくりについても充実させていき、併設の保育園と連携をとりながら職員一人ひとりの持ち味を生かした事業を展開していく。

【施設理念】　地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す。

【経営方針】

1．子どもや子育てに関わる大人からのニーズに応えられるような環境づくりや活動に、あそび心を持って取り組む。
2．個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施するとともに、子どもや子育てに関わる大人からの発信、発想を受け入れられる体制作りを行う。
3．地域や諸機関との連携を図りながら、それらのコーディネーター的役割を担う。

【事業・運営計画】

1．事業実施計画

（ア）児童館施設の自主活動的利用と利用児童の把握
①日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる環境を提供する

（イ）乳幼児親子支援活動
①発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育ち」・「親育ち」を支援する

（ウ）小学生集団あそび支援活動
①運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する

（エ）中高生居場所づくり推進事業
①自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する

（オ）地域組織活動の育成及び関係機関との連携事業
①子育て支援の拠点として、家庭や学校、コミュニティや諸機関と連携・協力を図る

（カ）出前児童館事業
①児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作りを支援する

2．運営管理体制の充実

（ア）児童館運営委員会の実施
①適正な運営を展開・維持するため、運営委員会で広く意見を求める

（イ）利用者のニーズや満足度の把握と苦情対応
①利用者の声を聴き、ニーズに即したサービスの提供や質の向上を目指す

（ウ）職員の資質向上
①児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に行う
②児童館交流研修や専門性を高めるための研修に参加する

【数値指標】　延利用者予定数　30,000人　　出前児童館の予定回数　130回
正職員1名　　パート職6名　　合計7名

野上あゆみ保育園

国の施策もあり宝塚市も近年、毎年のように新設園を整備している。「コモディティ化」を保育園で例えると、保護者に「どの園に預けても同じ」と思われてしまうことと定義づけるのであれば「この園に預けたい」と思ってもらえることにほかならない。その中で、聖隷の園として大切にしてきたことを守りつつ、園の特色や強みを今まで以上に意識し明確にしていくことが必要だと感じている。児童館・学童保育・保育園との連携を密にとることを一人ひとりの職員が意識し、行事等での参加の仕方などを提案していけることを目指したい。

また、子育て支援という視点から「子どもの心の発達」を今まで以上に伝えていけるよう、園の中で、保護者との対話ができる機会をより多く取り入れていく。

【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」　－エフェソ　5-2－

【経営方針】

1．私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る。

2．職員と保護者が、良い関わりを、子どもたちの成長を共に喜び合う。

3．地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする。

【事業・運営計画】

1．保育の質の向上の為の取り組み

（ア）　職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、子どもたちの主体性を育てていくことを前提に保育の実践を考え、その上で園全体に意識を持ちつつ職員一人ひとりの個性を生かした活動を発信、実現しやすい環境を整える

（イ）　異年齢児保育・高齢者など、多様な人々との交流を通して子どもの視野や社会性を広げ、コミュニケーション能力を育てノーマライゼーションの土台を作る

（ウ）　子どもたちの様子や育ちについて保護者と気軽に話し合える茶話会を設け、子どもの発達を伝えつつ、日々の中で保護者が大変だと感じていることなどを具体的に支援していく

（エ）　日々の食に興味を持ち栄養士の協力を得ながら手伝いや、食育への取り組みを行うと共に、野菜の栽培や収穫を通して生長や味の違いを感じられるような機会を継続的に持つ

（オ）　行事など、在園児と学童保育児童の参加の仕方を検討し、職員間の連携や理解も深めていけるようにする

2．施設の防災力の強化

（ア）　自園の防災力の強化を図るため、マニュアルや訓練等の見直しと共に宝塚の聖隷施設との連携や地域の災害拠点としての動きを考える

（イ）　引き取り訓練の内容検討

3．地域連携よる面的活動

（ア）児童館・学童保育との連携

① 互いの役割を理解し、共有しながら地域に根ざした活動実践に取り組む

② 地域ニーズを知り、子育て支援プログラムの充実化を図る（保護者参加プログラムの実施）

（イ）市内聖隷保育園３か園との連携

① 宝塚地区のよき働き手となるよう研鑽する

（ウ）宝塚地区聖隷施設との連携

① 月１回の会議の中での情報交換と共有を行い、子どもたちと高齢者との交流を図る（宝塚せいれいの里、聖隷逆瀬川デイサービスセンター、宝塚エデンの園、宝塚栄光園）

4．「人づくり」への取り組み

（ア）研修への参加など

① 全ての職員が専門性を高めるための研修に積極的に参加する。また、研修報告を充実させ、職員が共有できるようにしていく

② 全国規模研修：乳児保育担当者研修・障がい児保育担当者研修・子育て支援研修
聖隷保育園研修：聖隷保育学会・聖隷階層別研修・あゆみ合同研修

③ 逆瀬川あゆみ保育園の４歳児受け入れに向けての交流

④ 園内研修：テーマを決め年間を通して自ら研究しまとめ、その取り組みを学会等で積極的に発表する風土をつくる

⑤ その他：歳児別保育研修・キリスト教保育指針より人権研修など、ＯＪＴの定期的に実施

（イ）次世代育成

① トライやるウィークの中学生や実習生の受け入れにより次世代育成を目指す

【数値指標】

利用者数	定員　90名		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
	児童入所率 118.3%	4/1現在	7名	13名	15名	15名	28名	26名	103名
		内、障がい児				1名	1名	2名	4名
		年間入所延人数	105名	177名	180名	180名	336名	312名	1,278名
	特別保育	年間利用延人数	一時保育事業						1,142名
			延長保育事業						3,120名
			障がい児保育						932名
			子育て支援事業						240名
職員数（常勤換算）			施設長	保育士	看護師	調理	助手	事務	計
		正規職員	1名	14名	1名			1名	17名
		ﾊﾟｰﾄ･ｱﾙﾊﾞｲﾄ		6名					6名
		計	1名	20名	1名			1名	23名

野上児童館

児童館は、利用者の方が自ら足を運んで頂き成り立つ居場所事業である。保護者同士との特に母親同士がつながり、地域へ根づいていくことを意識し親子参加のプログラムの見直しを行ってきた。現在の職員体制の中で、出来ることを見極めながら今後、取り組みの内容も検討していきたい。

また、学校や健康センターなど、宝塚市の公共施設や、保育園・学童保育との連携もとりながら、野上児童館のあるべき姿を職員と共に見出していきたい。

【施設理念】　地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す。

【経営方針】

1．来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める。

2．地域のもつニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや、子育て不安を抱える保護者のこころやすらぐ児童館、地域の子育て支援の拠点を目指す。

3．関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティーワークを進める。

【事業・運営計画】

1．サービスの質の向上

（ア）食育、自然体験、小学生向けのプログラム等、様々な活動を企画する

（イ）児童館内で昼食を摂り、ゆったりと過ごすことができるようにランチタイムを設定する

（ウ）乳幼児プログラムは予約制ではなく、参加しやすいものとし、内容の充実を図る

（エ）おもちゃやゲーム、また書籍等、利用者が興味を持って遊べるように環境を整備する

（オ）子育てに役立つ地域の資源情報をまとめ、いつでも利用者に提供できるようにする

（カ）職員以外の幅広い年齢層の大人と触れあう機会を増やすため、地域の中で技能を持った人（囲碁、将棋・手品・卓球など）にボランティアとして関わってもらう

2．地域との連帯の強化

（ア）小学校、中学校、自治会、まちづくり協議会などとの関わりを深め、協力体制をとり地域の子育て力をアップさせる

（イ）出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し、さらに地域の協力を得ながら、ニーズに見合った実施を進め定着させる

（ウ）地域での子育てイベントへ、出前児童館として参加することで、遊びを提供し、地域との協力や参画を得る

3．職員の資質向上

（ア）宝塚市児童館交流研修等にはパート職員も含め参加する

（イ）子育て支援研修などより専門性を高めるための研修へ参加する

【数値指標】　ひろば型３名　出前児童館３名

宝塚栄光園

特別養護老人ホーム(従来型)
短期入所生活介護

2014年度は同地区内に新規施設整備があり、当園の職員が大幅に入れ替わり、もう一度人材を育成することの大切さに気付かされた一年であった。この点から、2015年度は『「ここに来てよかった」と思ってもらう“人”づくりを』一番の命題として取り組み、職員の「丁寧な言葉遣いと丁寧な態度」をもって、入居者・家族に接していく所存である。

宝塚栄光園が従来型多床室という特徴を持っており、背負うべき入居利用者像である、「生活困窮要介護者」「高医療要介護者」「重度認知症要介護者」の利用を踏まえて、それに耐えうるハード&ソフトウェアの態勢づくりを進めていく。特に、「高医療要介護者」においては、たん吸引実務者の早期養成と、「重度認知症要介護者」における認知症実践者リーダーの育成を早急に行っていく。

地域における宝塚栄光園の役割として、「最後の最後は宝塚栄光園で」との声に応えるべく、地域から要望されている入居・短期入所の機能を強化するとともに、新しい地域密着型のサービス展開を模索していく。また、地域貢献事業について、あらゆる可能性について積極的に取り組んでいく。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

1．宝塚栄光園　全事業所の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。
2．多職種協働によるケアマネジメントを実践し、個々の利用者に最適なケアサービスを常に提供していく。

【事業・運営計画】

1．利用者に「ここに来てよかった」と思ってもらう“人”づくりを
　(ア) 職員すべてが取り組む「丁寧な言葉遣いと丁寧な態度」での対応ができる
　　① 職員が利用者に接する言葉遣いや態度を丁寧にすることで、職員の意識の変化を起こす
　　② 接遇研修の実施、利用者への処遇取組の評価の実施
　(イ) 介護事故減少への取り組みとリスク管理の徹底
　　① リスク分析、介護事故防止・減少策の強化
　　② 各セクションにおけるリスク管理の徹底
　(ウ) より良い人材の創出のための取り組み

① 介護テクニカルラダー等を使用することで、次世代マネジャーを育成していく

② 職員のスキルアップのための研修強化、介護職員キャリア段位制への取り組みを行っていく

2．利用者が「安心できる」サービス提供を

（ア）認知症のある方への対応力の向上

① ＢＰＳＤ症状が強く出ている方でも安心して過ごせる体制づくり

② 認知症実践者研修に年間３名参加。認知症専門ケア加算の算定ができるよう体制を整える

③ 認知症のある利用者が安心できるハード面の整備実施

（イ）医療依存度の高い利用者の受入れ

① 医療依存度が高い利用者（胃ろう、たん吸引等）を在宅サービス（訪問看護ステーション等）との連携のもと、慎重かつ丁寧に受入れ、確実にケアを実施していく

② たん吸引研修受講者が全体の 80%以上になるようにする

（ウ）短期入所における緊急利用の積極的受入れ

① 地域の「緊急時の要」として、短期入所生活介護での緊急受入れを積極的に行う

② 年間 20 ケースを目指して受け入れを行い、その後の他サービスとの連携を重視し、安心できるサービスを提供する

3．地域の方が「いつまでも住み続けられる地域」に貢献を

（ア）ＬＳＡ事業（地域サポート型特養事業）の受諾

① 兵庫県の地域サポート型特養へ応募・サポートの充実

（イ）新しい地域密着事業の模索

① 介護保険法改正に伴う、小規模多機能型居宅介護の実施の可能性を見出す

② 地区内の小規模多機能居宅介護のニード・マーケティング調査の実践

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ（個室 19 室、2 人室　3 室、4 人室　15 室）

	特養入所	短期入所	合計
利用者定員	70 名	15 名	85 名
利用者延べ数	24,820 名	5,110 名	29,930 名
一日平均利用者数	68.0 名	14.0 名	82 名
稼働率（％）	97.2%	93.4%	96.5%
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日
単価（一人一日当り）	11,607 円	12,113 円	
サービス活動収益（千円）	289,124 千円	61,899 千円	351,023 千円
職員数（常勤換算）	43.6 名	7.6 名	

花屋敷せいれいの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園、花屋敷デイサービスセンター
花屋敷地域包括支援センター

2015 年度、花屋敷せいれいの里は、介護保険事業の対象として特に必要とされているＢＰＳＤ症状の強い認知症要介護者、医療依存度の高い中重度要介護者への積極的な各サービス提供はもちろんのこと、社会福祉法人として、地域全体の福祉の向上に寄与する公益的事業に積極的に取り組むために、地域包括支援センターを核とした「地域との連携体制」を再構築したい。

私たちの使命は、「地域で暮らす住民の支えになること」であり、必要となる福祉ニーズの掘り起こしと対応について、高齢者に限らず積極的に関与していかなければならない。要介護者の生活拠点の機能としてはもちろん、地域の福祉課題に対して自助力、共助力、公助力が向上し、安心して生活できる環境整備のために里全体が、それぞれで持つ機能を強化して取り組むことが求められる。

具体的には、地域包括支援センターと連携した 24 時間 365 日の相談及びサービス提供機能、高齢者や障がい者の積極的な雇用機会の提供、地域防災の一拠点として位置付けの強化等に取り組んでいきたい。そのためには、「人材の育成と定着」が絶対的な条件であり、エビデンスに基づいた確かな介護知識と技術と「地域」「利用者」を大切にする「想い」に支えられた質の高いサービスを提供していくことで、地域との信頼関係がさらに深まると考え、あらゆる機会を通じて職員一人ひとりの取り組みが、活かされる組織作りをさらに進めていきたい。

花屋敷せいれいの里が、この地に開設して 16 年目を迎えるに当たり、あらためて私たちは、この地域の人々にとっての暮らしの居心地のよさ（安心感）を実現するために、なすべき事をしっかりと見定め、誠実に確実に実践していきたい。

【施設理念】互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしい生き生きとした暮らしの創造のために地域全体の福祉の向上に寄与する。

【経営方針】

１．いのちと尊厳を守ります。
２．よりよいサービスを提供します。
３．地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

１．個々の利用者に日常的な居心地のよさを提供する
（ア）認知症ＢＰＳＤ症状に対応できる条件整備に取り組む
①他職種協同で利用者の想いに沿った質の高いケアマネジメントを実践するために、ひもときシート、センター方式の導入を進める
②認知症対応モデルユニットを設定し、認知症実践者研修、実践リーダー研修を効果的に

受講させると共に、正しい知識と技術に基づいた当園の認知症ケアモデルを確立させ、実践、評価とＯＪＴを通じた全ユニットへの定着化を進める

③認知症対応通所介護のケアの質の向上のために、通所介護計画とケア内容、メニューの見直しを進め、花屋敷ならではの認知症通所介護を確立する

④短期入所と通所介護との日常的な情報共有の仕組みを確立させ、認知症の在宅利用者を確実に受け入れていく

（イ）医療依存度の高い中重度要介護者のケアを維持向上する

①全介護職員が、エビデンスに基づいた知識と技術を提供するために、痰吸引、胃ろう管理、緊急時対応を含む医療ケアのＯＪＴをユニット毎にさらに確実に実施していく

②利用者、職員相互の介護負担軽減のための園全体の設備、備品面の見直しを効果的に行う(空調（温度、湿度）、浴室、居室、トイレ等の手すり、リフト活用)

③「利用者本人の意思」を最大限に尊重した看取り介護実践のためのあらゆる取り組みをする

④在宅ニーズに応えるために短期入所の緊急利用時に必要なノウハウ(利用のための報告・連絡・相談)の確立や、通所、短期入所送迎体制の強化、チームアセスメント力の向上に取り組む

⑤訪問看護ステーション等との積極的な連携により医療対応体制を強化する

⑥季節ごとの各種感染予防対策をより一層強固なものにしていく

（ウ）オール個室、ユニット化に見合う質の高いケアを確立する

①ユニットリーダーのスキルアップとユニット間の連携体制を構築するために、ユニットリーダー研修の受講推進と研修内容の共有化を日常的にできる仕組みを作る

②質の高い個別ケアの提供のために、他職種協同で個々の利用者のケアマネジメントを効果的に実践できるように、よりよいアセスメント方式を導入する

③身体拘束廃止、虐待防止に関する意識を高める取り組みを通年進める

④食事の食材、メニュー、形態をさらによりよいものにできるように食事委員会の質を高める

２．人材育成と定着化の推進

（ア）介護職員の効果的なスキルアップを支援する

①キャリア段位制を積極的に導入し、個々のスキルアップの道筋と評価を明確にした目標参画と連動したやりがいにつながる取り組みを定着させる

②必要に応じた外部研修を計画的に参加できるように取り組むことで、役割と責任を自覚できるように働きかける

（イ）看護職員の効果的なスキルアップを支援する

①看護職員ラダーを積極的に導入し、目標参画と連動したやりがいにつながる取り組みを定着させ、必要に応じた外部研修に計画的に参加できるように取り組む

（ウ）相談員の効果的なスキルアップを支援する

①厚生労働省の職業能力評価基準を積極的に活用し、個々の課題と取り組み評価を明確にする

３．地域ニーズに即応し、社会貢献活動に積極的に取り組む

（ア）地域包括支援センターとの連携強化

①あらゆる地域課題を理解し、即応するために、地域の会合等に積極的に協同参加して

いく

②地域ニーズに合わせたサービス提供を確実に実施するために、各相談員のソーシャルワーク機能を強化する取り組みを進める

（イ）効果的な社会貢献活動を実施する

①虚弱高齢者、障がい者、生活困窮者等のニーズ把握と支援を具体的に進める

②高齢者、障がい者の就労場所としての可能性を追求していく

③介護技術講習会、認知症介護教室など地域の介護力を高める取り組みを行う

（ウ）地域防災拠点としての機能を強化する

①災害発生時のＢＣＰを策定し、日々の安全体制の強化と福祉避難所の役割の強化を進める

②地域と協同で定期的な防災訓練を実施する

（エ）地域の社会資源として、長く地域で活用されるように、計画的で効果的な省エネルギー活動と設備更新を行う

【数値指標】

高齢者入所・通所関係事業

	特養入所 ユニット型	短期入所 ユニット型 空床型	通所介護			合計
			一般型	予防型	認知症対応	
利用者定員	108名	12名	47名		12名	
利用延数	38,796名	4,392名	8,392名	1,089名	2,462名	
一日平均利用者数	106.0名	12名	27.0名	3.5名	7.8名	
稼動率（%）	98.1%	100.0%	77.1%	29.2%	65.8%	
稼動延日数	366日	366日	312日	312日	312日	
平均介護度	4.09	3.00	2.40	0.40	3.0	
単価（一人一日）	13,546円	13,508円	11,462円			
サービス活動収益（千円）	526,787千円	59,224千円	136,525千円			770,630千円
職員数（常勤換算）	81.7名	13.2名	27.57名		4.03名	126.5名

地域包括支援事業（花屋敷地域包括支援センター）

宝塚市受託収入（千円）	予防プラン請求件数	予防プラン委託件数	予防プラン単価（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
31,500千円	3,780件	660件	4,387円	48,094千円	8.9名

ケアハウス花屋敷

2014年度は、前年と同様、入居率100%維持でき、収入は安定して得られた。待機者も特別な営業活動は行っていないが常時60名程度あり、ケアハウスが施設として求められていることの証でもあるかと思う。しかし、在宅生活を支える仕組みが広がる中、より重度の方を施設で看ていく方向性を考えたときに、ケアハウス花屋敷が今後どのような形で運営するのが望ましいのかは、熟考が必要である。2015年度は、今後の方向性を見定める年と位置付け、同時にケアハウスという一つの社会、地域を含めた社会の中で共存し、入居者同士が支えあう意識、見守りの意識を高めていきたい。
また、より近隣の方々との協力体制を強くし、防災機能、健康維持増進のための役割も担っていきたい。そのためにも、聖隷や他法人の在宅事業所や地域包括とも連携する仕組みを構築する。

【施設理念】
高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】
1．いのちと尊厳を守ります。
2．よりよいサービスを提供します。
3．地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1．自立を支援し、認知症の症状や介護の必要性があっても対応できる柔軟性、対応力を強化する
（ア）認知症についての知識・対応能力の取得・向上
①認知症実践者研修の受講1名
②①の受講者からの伝達講習と認知症についての勉強会を実施
③入居者に対する講習の実施…地域包括や訪問看護の協力を得て、入居者に認知症に関する知識と共助の意識を持ってもらえるよう働きかける。また、一人でも二人でも入居者の中から認知症サポーターを育成する
④健康体操や健康相談・介護相談の場づくり…山本地区の在宅事業と連携し、地域の方向けのサロンを日曜日に開催。年3回程度職員を派遣することの検討
（イ）介護技術の習得と強化
①宝塚地区介護技術研修、事業団研修の計画的受講
②介護ラダーの効果的な活用、ＯＪＴ
（ウ）自立支援
①入居者個々の状態や変化に対して、必要なタイミングで必要な支援が出来るよう、在宅サービスと園独自の有償サービスを組み合わせ、マネージメントする
②個々の能力を見極め、出来ることと不足していることの判断をカンファレンスで実施
(エ) 介護支援専門員、訪問看護、訪問介護、福祉用具専門員との入居者個々についての連携
（オ）宝塚地区の1施設として、高齢者福祉・障害者福祉の観点を踏まえ、ケアハウス花屋敷の今後の在り方を検討する1年としたい

2．生活の中で楽しむことや心地よさの提供
（ア）日本の伝統行事や季節感を感じてもらえる行事を毎月実施
（イ）園内行事は外出が難しい方含め皆が参加できる内容を計画する
（ウ）今年は職員も積極的に演目を披露し、楽しんでいただける内容を2回計画する
（エ）玄関やロビー、廊下等共有スペースには花や絵画、季節の飾りつけをし、季節感を演出

3．運営安定の維持
（ア）待機者数の維持と適時に入居案内を行うことで100%入居率を維持していく
（イ）計画的な修繕・設備管理と予測外の故障に対応できる資金準備
（ウ）物価上昇や光熱費高騰への対処
①天井電熱ヒーター廃止の検討

4．安心安全で美味しいと感じてもらえる食事の提供
（ア）給食委託業者の職員と日常から声を掛け合い、検食簿や食事委員会を通して、また、行事毎の入居者からの評価の声を共有し、入居者に喜んでいただける食事を、共にやりがいを持って提供していく
（イ）季節感や伝統行事などを考慮し、目でも楽しめる食事、食材の選択や調理の工夫により、より食べやすい食事を提供する

5．防災対策
（ア）４～５月に行う居室訪問時に災害時対策として全入居者の居室の確認と準備品について説明する
①家具の配置方向・位置、高さ、固定状況を確認し、身を守る方法を推奨する
②災害用の予備薬２日分の確保の確認
③コンセント差込口の清掃の確認→必要な方には職員にて実施する
④ラジオ・懐中電灯・飲料水の準備の推奨
（イ）花屋敷栄光園と共に花屋敷せいれいの里の防災マニュアルを作成する
①防災委員会、管理会議、食事委員会が連携し、必要な準備と起こった時の対応方法を決定
②災害時の食料については、給食委託業者と園が準備するものを明確にし、保管管理
③合同で災害・火災時の訓練を行う

6．安全で快適な生活環境の整備、老朽化に伴い発生する修繕や設備更新を計画的に行う
（ア）ナースコールの設備更新を前期に実施
（イ）ロビーの床（フロアシート）の張り替えを後期に実施
（ウ）敷地入口と玄関前の植栽、庭の植木の定期的な剪定。花の植え替えの計画的な実施

7．安全な薬剤管理
（ア）昨年に継続して、より安全な薬剤管理と確実な服薬提供について、調剤薬局等の協力を得て実施していく（特に急な受診・薬剤処方の際の配薬）
（イ）服薬を確実に行うための氏名復唱、目の前での服薬確認の実施
（ウ）利用者の状態変化に応じて判断し、ケアマネージャーやご家族と相談して薬剤療養管理等を利用していく

【数値指標】

利用者定員	100名
利用者延べ数	36,600名
稼動率（%）	100%
単価（一人一日）	4,296円
サービス活動収益（千円）	157,251千円
職員数(介護:常勤換算)	6.4名
(相談員:常勤換算)	1.0名
(宿直員:人数)	3名
(運転手:人数)	1名

宝塚すみれ栄光園

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター
聖隷ケアプランセンターすみれ

2014年4月に開設した入所と短期入所は、多くの方にお申し込みを頂き、8月以降は高い稼働率となり、10月にはデイサービスとケアプランセンターを開設するに至った。開設2年目となる2015年度は、我が家のように安心できる居場所として、ゆったりと過ごして頂き、健やかな生活を楽しんで頂く施設として、安定した運営の構築を目指す。

「日常生活の場」となる入所では、ユニットを活かした家庭的雰囲気の中で、利用者自身が生活を営むことに取り組んでいく。短期入所は、リピーターの方も多く、デイサービスとの併用利用の使いやすさ、緊急時の対応等柔軟な受入体制を継続していく。

在宅事業は、これまで宝塚すみれ栄光園の所在する宝塚市第4地区に、聖隷の在宅サービス拠点が無かった事から新規利用者の獲得には努力を要するが、地域の安心拠点として役割を担うためにも推し進めていかなければならない。デイサービスは「利用者が『ホッ』とできる空間」の開設コンセプトを継続し、来て良かったと思って頂けるデイサービスを目指す。ケアプランセンターは、宝塚せいれいの里内事業との連携を促進し、互いのサービスの質向上に繋がる関係作りに取り組んでいく。

介護・看護職員の約半数が聖隷に就職して2年未満であることから、人材育成にも力を注がなければならない。新人・リーダーの教育に向けて、宝塚せいれいの里としての人材育成システムを構築していく。

入居者・利用者・家族・職員・地域の方々が、共に生きる場として、宝塚せいれいの里が宝塚市の聖隷施設の中核となれる様、努力していく。

【施設理念】

私たちは高齢者や障害者を含む全ての人々が、自立し尊厳を持って暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】

1．いのちと尊厳を守ります。
2．よりよいサービスを提供します。
3．地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1．入居者・利用者お一人お一人に安心と穏やかな暮らしを提供
（ア）生活の場としての日常生活を大切にする。入居者・利用者の能力を活かし、ユニットとして家庭的な雰囲気の中、役割のある生活を営んで頂く
（イ）一人ひとりの暮らしの変化の把握、体調変化の早期発見に努め、園での安定した生活を提供する

（ウ）アクティビティ・レクリエーション等を年間計画に基づき実施し、祭事や季節感を大切にする

（エ）アセスメント能力を高め、ケアマネジメントの質を向上し、入居者・利用者の心身の状況に応じた適切な介護を提供する

2．宝塚せいれいの里「人材育成システム」の構築

（ア）リーダーは自身の成長は勿論、スタッフを教育する者として役割を明確にする

（イ）新人教育・パート職員育成プログラム、プリセプター時に用いるチェックツールを作成する

（ウ）聖隷の内部研修、ユニットリーダー研修等の外部研修の受講と合わせて、職員が目指すキャリアを支援する研修や職場異動を行っていく

3．宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

（ア）短期入所・デイサービス・ケアプランセンターの事業展開により、入居施設への待機者登録へ繋げる

（イ）宝塚地区入所施設待機者情報の共有システムを構築し、入居待機者へ対しタイムリーな情報提供を行い、稼働率維持を図る

4．様々なニーズに応え、地域に信頼される施設運営

（ア）地域包括ケアに対する施設の役割として、看護師・管理栄養士・作業療法士等が専門職として地域の求めるニーズに対応する

（イ）研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修に開放する

（ウ）入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入に力を入れる

（エ）中学生トライヤル研修・大学生ボランティア・実習受入れ等を通して福祉教育にも注力する

5．環境活動への取り組み

（ア）施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める

（イ）施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	特養入所（ユニット）	短期入所	通所介護（一般）	居宅介護支援		合計
				介護	予防	
利用者定員	100名	20名	24名			
利用者・請求延べ数	35,405名	6,808名	4,816名	1,123件	150件	
一日平均利用者数	97.0名	18.6名	15.4名			
稼働率	97.0%	97.0%	64.4%			
稼働日数（延べ）	366日	366日	312日			
単価（一人一日・件当り）	13,649円	12,538円	10,129円	14,464円	3,910円	
サービス活動収益（千円）	538,834千円	87,230千円	57,596千円	16,790千円		700,450千円
職員数（常勤換算）	79.8名	12.0名	11.8名	4.3名		107.8名

介護付きケアハウス　ケアハウス宝塚

2014年4月に開設したケアハウス宝塚は、順調に入居者数が増加し、12月には定員である60名に達することが出来た。開設2年目となる2015年度は、安定した運営を構築するとともに、入居者のニーズを受け止め、その人らしい生活が営める施設を目指す。

ケアハウス宝塚は在宅から特別養護老人ホームまでの中間施設であることを踏まえ、入居後も在宅からの生活スタイルを尊重し、アクティビティの充実を通じて入居者が安心して在宅時と変わらぬ生活が継続できるよう支援していく。

また、宝塚市の承認を得て、2015年4月からは6階の一部をケアハウスに転用し10室増の70室での運用が決定した。これを受け、より入居者の特性に合わせた住み替えを進め、入居者の暮らしやすい環境を構築していく。

介護・看護職員の約半数が聖隷に就職して2年未満であることから、人材育成にも力を注がなければならない。新人・リーダーの教育に向けて、宝塚せいれいの里としての人材育成システムを構築していく。

入居者・利用者・家族・職員・地域の方々が、共に生きる場として、宝塚せいれいの里が宝塚市の聖隷施設の中核となれる様、努力していく。

【施設理念】

私たちは高齢者や障害者を含む全ての人々が、自立し尊厳を持って暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】

1．いのちと尊厳を守ります。
2．よりよいサービスを提供します。
3．地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1．入居者の希望をかなえ、その人らしい生活を実現する
（ア）在宅からの生活スタイルを尊重し、入居してからも自立した生活を継続できるよう支援する
（イ）入居者のニーズに合わせたサークル活動を提供する
（ウ）入居者個々に対応した外出企画を計画し、実施する
（エ）利用者の細かなニーズに対応するため、ボランティア導入を検討する

2．宝塚せいれいの里「人材育成システム」の構築
（ア）リーダーは自身の成長は勿論、スタッフを教育する者として役割を明確にする
（イ）新人教育・パート職員育成プログラム、プリセプター時に用いるチェックツールを作成する

（ウ）聖隷の内部研修、ユニットリーダー研修等の外部研修の受講と合わせて、職員が目指すキャリアを支援する研修や職場異動を行っていく

3．増床を含めた運営の再構築
（ア）入居者の特性に合わせた住み替えを実施する
（イ）増床に合わせた、業務・勤務体制の見直しを実施する

4．宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供
（ア）宝塚すみれ栄光園、結いホーム宝塚との間で会議体、行事を共催し連携を深める
（イ）宝塚地区入所施設待機者情報の共有システムを構築し、入居待機者へ対しタイムリーな情報提供を行い、稼働率維持を図る

5．環境活動への取り組み
（ア）施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
（イ）施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付きケアハウス
利用者定員	70名
利用者延べ数	24,157名
一日平均利用者数	66.0名
稼動率	94.3%
稼動日数（延べ）	366日
単価（一人一日当り）	13,550円
サービス活動収益（千円）	328,769千円
職員数（常勤換算）	46.9名

介護付有料老人ホーム　結いホーム宝塚

2013年11月に開設した結いホーム宝塚は、順調に入居者が増え、2014年度は早い時期から予想を超える入居者を確保することができた。特別養護老人ホーム・ケアハウス等に住み替えが可能な施設、高齢者世帯・一人暮らし世帯の方が安心を求めて入居できる施設、病院から直接入居できる施設等、入居にあたり当施設に求められるものは様々である。

元気な方から介護を必要とする方までが共に生活する場であるがために、入居後に施設に求められる期待・要望の幅も広い。入居者のその人らしさを支えるために、介護・看護・相談・栄養・運営管理がそれぞれの専門性を発揮し、連携を深めていかなくてはならない。またボランティアなど地域の力を借りて施設での生活の幅を広げていくだけに留まらず、元気な入居者が地域の活動につながるための環境を整えていく。

職員の質の向上については、施設内外の研修などを活用して引き続き力を注いでいく。また宝塚せいれいの里としての人材育成システム構築に向けて、協力していく。

【施設理念】

私たちは高齢者や障がい者を含む全ての人々が、自立し尊厳を持って暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】

1．いのちと尊厳を守ります。
2．よりよいサービスを提供します。
3．地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1．入居者のその人らしさを支えるためのケアの提供
（ア）入居者それぞれの心身の状況に応じた適切な介護を提供する
（イ）日々の生活を豊かにするために、アクティビティや外出企画、健康相談を充実する
（ウ）「食べる楽しみ」に応えるために、日々の食事を充実し、リクエストにも対応できる体制を整える
（エ）ターミナル期において、職員がそれぞれの専門性を発揮するとともに、連携の仕組みを構築する
（オ）入居者一人ひとりに合ったケアプランを作成し、サービスの質の向上を図る
（カ）家族への情報発信を積極的に行い、家族との円滑な協働関係を築く

2．宝塚せいれいの里「人材育成システム」の構築

（ア）リーダーは自身の成長は勿論、スタッフを教育する者として役割を明確にする

（イ）新人教育・パート職員育成プログラム、プリセプター時に用いるチェックツールを作成する

（ウ）聖隷の内部研修、リーダー研修等の外部研修の受講と合わせて、職員が目指すキャリアを支援する研修や職場異動を行っていく

3．宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供

（ア）宝塚せいれいの里としての委員会活動を実施することを通して情報の共有化を図り、宝塚せいれいの里全体での行事も実施する

（イ）宝塚地区入所施設待機者情報の共有システムを構築し、入居待機者に対しタイムリーな情報提供を行い、稼働率維持を図る

（ウ）宝塚せいれいの里・宝塚地区の施設や事業と連携を深めることで、入居率の維持向上に努める

4．地域住民との協働と地域社会への貢献

（ア）地域住民・団体に対する施設設備を解放するとともに、地区ネットワーク会議や民生児童委員協議会に出向き、情報を発信する

（イ）地域のボランティアを積極的に受け入れることと並行して、元気な入居者には地域でボランティア活動ができるような環境を整える

（ウ）中学生トライアル研修、大学生のボランティア・実習受入れ等を通して、福祉教育にも注力する

5．環境活動への取り組み

（ア）施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める

（イ）施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付有料老人ホーム
利用者定員	100名
利用者延べ数	35,502名
一日平均利用者数	97名
稼動率	97%
稼動日数（延べ）	366日
単価（一人一日当り）	14,152円
サービス活動収益（千円）	502,408千円
職員数（常勤換算）	62.5名